



平成 23 年 5 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック  
代表者名 代表取締役社長 福永 健司  
(コード番号 2342 東証マザーズ)  
問合せ先 取 締 役 坂本 珠美  
(電話番号 078-306-0590)

<マザーズ> 投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

- 開催状況
- 開催日時 平成 23 年 5 月 24 日 10 : 00 ~ 11 : 00
- 開催方法 対面による実開催
- 開催場所 東京証券取引所 東証 ARROWS プレゼンテーションステージ  
(東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)
- 説明会資料名 株式会社トランスジェニック 平成 23 年 3 月期 決算説明会資料

【添付資料】

株式会社トランスジェニック 平成 23 年 3 月期 決算説明会資料

以上

平成23年3月期  
決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～  
<http://www.transgenic.co.jp>

2011年5月24日  
株式会社トランスジェニック

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

## I. 平成23年3月期決算概要

1. 連結決算ハイライト
2. セグメント別業績概要

## II. 事業トピックス

1. 株式会社免疫生物研究所との包括的業務提携

## III. 平成24年3月期基本方針と連結業績予想

1. 平成24年3月期連結業績予想

## IV. 研究開発状況

1. 研究開発戦略
2. 開発パイプライン状況
3. 開発パイプライン - 膵がんマーカー



# I .平成23年3月期 決算概要

# 平成23年3月期連結決算ハイライト

表面上減収ながらも、実質的に2期連続の大幅増収および損益改善

※参考

単位:千円	H22.3	H23.3	増減額	H22.3 TG,PRM
売上高	603,985	509,100	▲94,885	382,734
遺伝子破壊マウス事業	232,487	306,519	74,031	232,487
抗体事業	55,807	77,750	21,942	55,807
試薬販売事業	94,439	124,830	30,391	94,439
食品事業	221,251	—	▲221,251	—
売上原価	373,210	271,666	▲101,543	187,724
売上総利益	230,775	237,433	6,658	195,011
販売費及び一般管理費	615,977	370,595	▲245,381	494,048
うち研究開発費	143,287	55,947	▲87,339	143,266
営業損失	▲385,201	▲133,161	252,039	▲299,037
経常損失	▲389,603	▲144,288	245,314	▲277,080
当期純損失	▲579,034	▲215,474	363,560	▲271,769

# 業績概要：セグメント情報

全事業セグメントでの増収増益・黒字達成、管理コストは更に削減

## 平成22年3月期セグメント情報

単位：千円	マウス	抗体	試薬販売	食品	管理	連結
売上高	232,487	55,807	94,439	221,251	0	603,985
営業費用	181,411	151,555	97,182	283,268	275,769	989,187
営業利益	51,076	▲95,747	▲2,743	▲62,017	▲275,769	▲385,201

※ 23年3月期よりセグメント区分を変更しているため、22年3月期の数値は変更後の新セグメント区分により作成し直したものであります。



## 平成23年3月期セグメント情報

単位：千円	マウス	抗体	試薬販売	管理	連結
売上高	306,519	77,750	124,830	0	509,100
営業費用	251,562	71,458	101,974	217,266	642,261
営業利益	54,956	6,291	22,855	▲217,266	▲133,161

増収・増益

増収・黒転

増収・黒転

削減

## 業績概要：遺伝子破壊マウス事業

## 売上高増加、3期連続の増収・増益

単位：千円	H22.3	H23.3	増減額	増減率
売上高	232,487	306,519	74,031	31.8%
売上原価	130,409	190,179	59,769	45.8%
売上総利益 (粗利率)	102,077 (43.9%)	116,340 (38.0%)	14,262	14.0%
研究開発費	13,492	19,750	6,258	46.4%
販売管理費	37,509	41,632	4,123	11.0%
営業利益	51,076	54,956	3,880	7.6%

※ 23年3月期よりセグメント区分を変更しているため、22年3月期の数値は変更後の新セグメント区分により作成し直したものであります。

1. TG Resource Bank® 及びDNA解析などが順調に推移
2. 遺伝子破壊マウス作製受託の生産効率化の計画遅延により、売上総利益率が低下した結果、売上増加額に比し営業利益増加額は縮小

## 売上高増加、営業利益黒字転換

単位：千円	H22.3	H23.3	増減額	増減率
売上高	55,807	77,750	21,942	39.3%
売上原価	5,071	24,738	19,666	387.8%
売上総利益 (粗利率)	50,735 (90.9%)	53,012 (68.2%)	2,276	4.5%
研究開発費	125,295	36,197	▲89,097	▲71.1%
販売管理費	21,188	10,523	▲10,665	▲50.3%
営業利益	▲95,747	6,291	102,039	—

※ 23年3月期よりセグメント区分を変更しているため、22年3月期の数値は変更後の新セグメント区分により作成し直したものであります。

1. 受託サービスの受注予算は未達だったが、自社抗体製品の販売は好調
2. 新抗体製品の開発効率化(自社開発から共同研究へシフト)のもと、研究開発費を抑制し、黒字化達成

## 売上高増加、営業利益黒字転換

単位：千円	H22.3	H23.3	増減額	増減率
売上高	94,439	124,830	30,391	32.2%
売上原価	52,242	56,749	4,506	8.6%
売上総利益 (粗利率)	42,196 (44.7%)	68,081 (54.5%)	25,884 (64.8%)	61.3%
研究開発費	4,479	0	▲4,479	▲100.0%
販売管理費	40,460	45,225	4,764	11.8%
営業利益	▲2,743	22,855	25,599	—

※ 23年3月期よりセグメント区分を変更しているため、22年3月期の数値は変更後の新セグメント区分により作成し直したものであります。

1. サイトカイン、PTG製品ともに好調に推移
2. 取扱製品増加、販売強化により売上30%増加



## Ⅱ.事業トピックス

# 株式会社免疫生物研究所 (IBL社) との包括業務提携

— 両社がもつ強みを融合し事業シナジーを実現する —

	当社	IBL社
<p><b>既存事業</b></p> <p>事業セグメントは類似するが、それぞれ特徴があり重複・競合しない</p>	<p><b>抗体事業、試薬販売事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GANP®技術</li> <li>・製薬企業や公的研究機関とのネットワーク</li> <li>・新規のがんマーカー</li> </ul> <p><b>実験動物事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラップ法・TG Resource Bank®・受託サービス</li> </ul>	<p><b>研究用関連事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルツハイマー病・がん/炎症・代謝関連特化の抗体製品・キット製品</li> <li>・機能&amp;キャパを備えた実験動物関連研究所及び疾患モデルマウスの利用</li> </ul> <p><b>医薬用関連事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製薬企業や公的研究機関とのネットワーク</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗体試薬事業の補完</li> <li>・知財価値の最大化</li> <li>・実験動物事業の規模拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱製品・サービスの充実拡大</li> <li>・新技術の導入</li> <li>・実験動物事業の規模縮小により単独での事業運営の見直し</li> </ul>
<p><b>具体例</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社GANP®技術の収益化促進</li> </ul> <p>H23.3.11リリース GANP®技術のライセンスイン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存研究技術の効率的な製品化</li> </ul> <p>H23.4.25リリース 膵臓癌マーカーの共同開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄積されたIBL社の営業網の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GANP®技術による開発やサービスの付加価値向上</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有望シーズの導入及び製品化</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験動物事業のTG社への活用</li> </ul>



## Ⅲ.平成24年3月期基本方針と連結業績予想

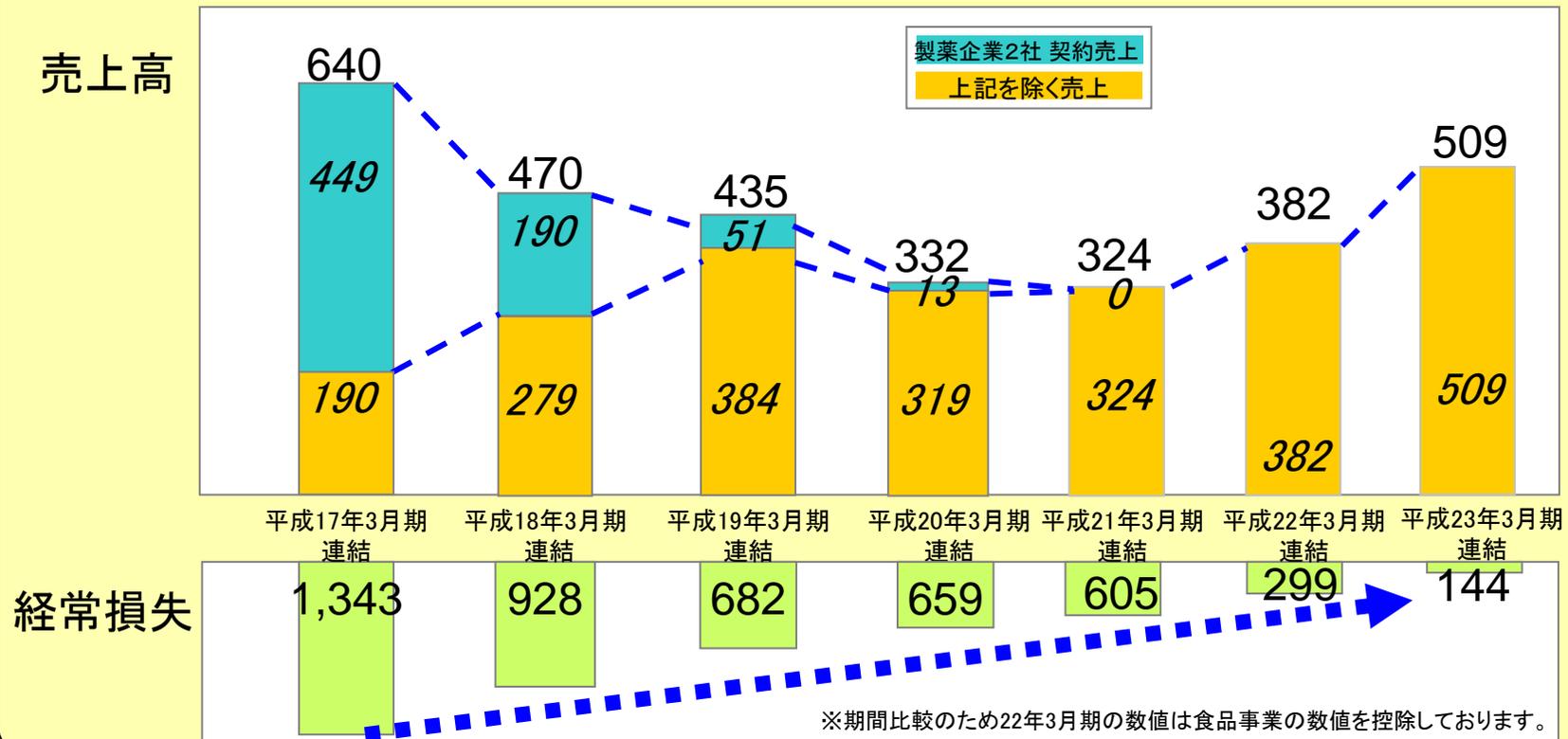
# 平成23年3月期までの損益構造変遷



1. 平成21年3月期: 売上減少、損益改善
2. 平成22年3月期: 黒字化の必須条件として、売上拡大・経費削減を実行
3. 平成23年3月期: 黒字化を短期的視野に捉えるため収益基盤を構築する
4. 平成24年3月期: 黒字化達成に向けて更なる収益基盤強化を図る

## 平成23年3月期までの業績推移

単位: 百万円





## 平成23年3月期の総括

- TG社の強い分野への経営資源集中により、大幅売上拡大を達成
- 遺伝子破壊マウス事業と試薬販売事業に関して、営業強化が功を奏し売上拡大、収益を確保
- 抗体事業に関して、抗体受託を再開するも市場回復計画が遅延し売上予算は未達だったが、営業利益において黒字化達成



## 平成24年3月期の基本方針

1. 各事業部門の増収増益基調を維持し、全体黒字化を達成
2. 中国市場を含め海外展開を積極的に推進
3. 抗体事業において、外部との共同研究による有用バイオマーカーの開発
4. 免疫生物研究所との包括的業務提携による、抗体関連の営業強化および研究開発の効率化

# 新年度計画立案の流れ



平成22年3月期セグメント情報 ➡

5期ぶりの増収、経費大幅削減

単位:千円	マウス	抗体	試薬	管理	連結
売上高	232,487	55,807	94,439	0	382,734
営業費用	181,411	151,555	97,182	251,623	681,772
営業利益	51,076	▲95,747	▲2,743	▲251,623	▲299,038

平成23年3月期セグメント情報 ➡

全事業増収・増益、収益基盤の構築

単位:千円	マウス	抗体	試薬	管理	連結
売上高	306,519	77,750	124,830	0	509,100
営業費用	251,562	71,458	101,974	217,266	642,261
営業利益	54,956	6,291	22,855	▲217,266	▲133,161

新年度経営計画 ➡

全事業の収益拡大・上場来初の黒字を計画

単位:千円	マウス	抗体	試薬	管理	連結
売上高	407,582	150,515	147,681	0	705,778
営業費用	277,352	110,501	106,495	197,381	691,729
営業利益	130,230	40,014	41,186	▲197,381	14,049

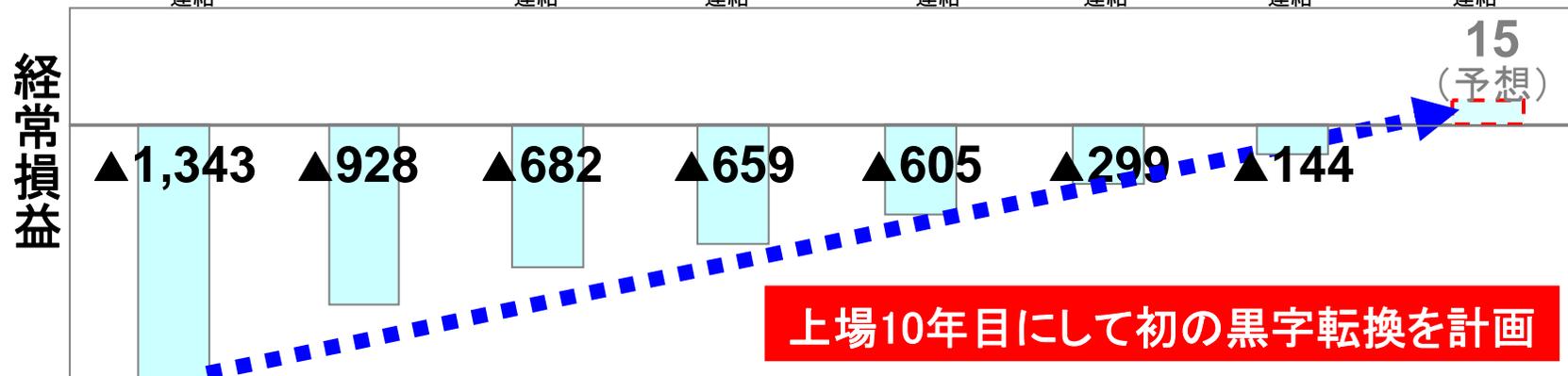
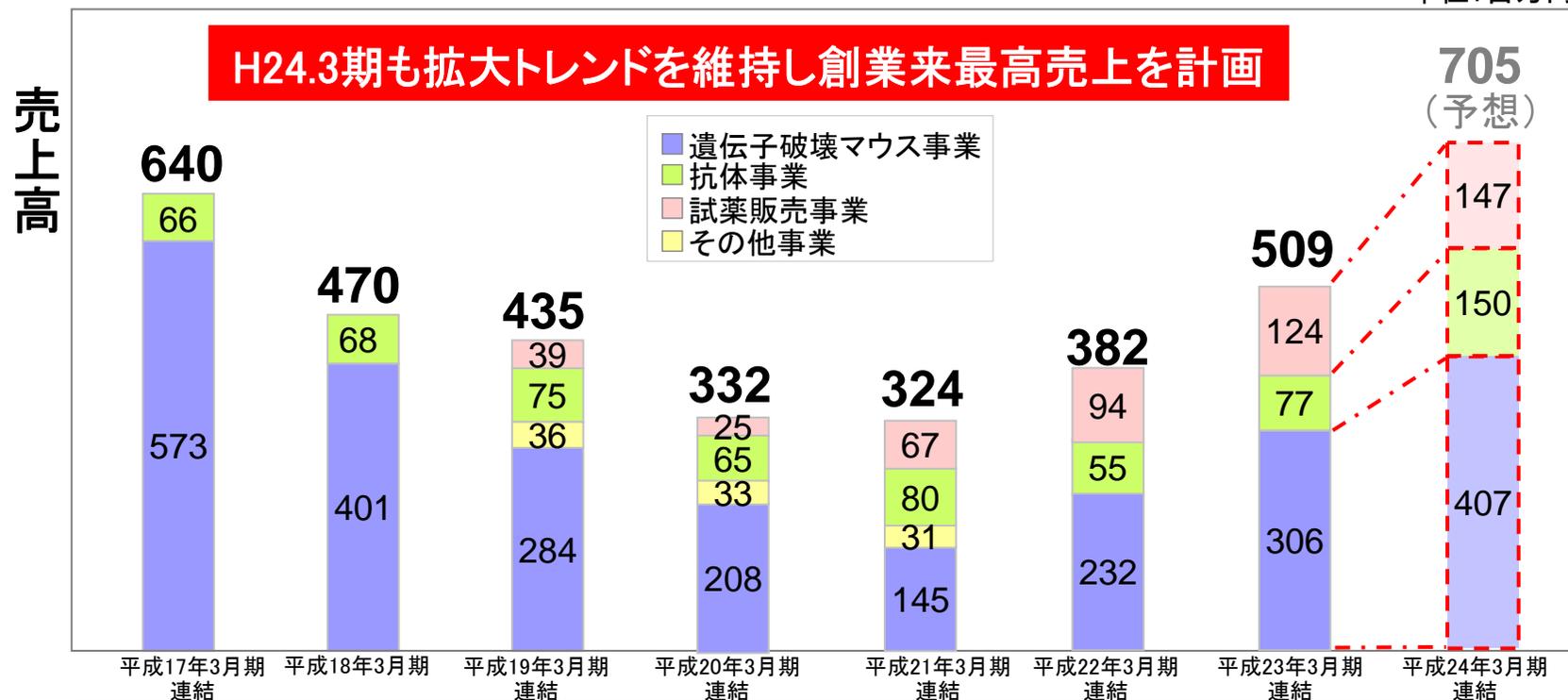
## 平成24年3月期連結業績予想

中期計画の通過点＝黒字化は、これまでの延長線上で実現する

単位:千円	H23.3 (実績)	H24.3 (予想)
売上高	509,100	705,778
マウス事業	306,519	407,582
抗体事業	77,750	150,515
試薬販売事業	124,830	147,681
売上原価	271,666	336,955
売上総利益	237,433	368,823
販売費及び一般管理費	370,595	354,774
うち研究開発費	55,947	50,353
営業利益	▲133,161	14,049
経常利益	▲144,288	15,612
当期純利益	▲215,474	10,442

# 平成24年3月期連結業績予想

単位: 百万円



※期間比較のため22年3月期の数値は食品事業の数値を控除しております。



## Ⅲ.研究開発状況

# 平成23年3月期 研究開発トピックス

4月

「GANP®マウス技術」の高親和性抗体製造方法に関する特許が日本にて成立

尿サンプルによる癌診断の測定系に関する特許が米国にて成立

6月

「トラップマウス技術」に関する特許が中国にて成立

8月

第23回日本動物細胞工学会2010年度国際大会において成果発表

9月

株式会社GMJとの業務提携に関するお知らせ

10月

ハルピン医科大学との共同研究契約締結のお知らせ

11月

早期癌マーカーとしてのジアセチルスペルミンに関する特許が国内で成立

遼寧MEDI社との独占ライセンス契約締結のお知らせ

12月

腫瘍マーカー(ACTN4)抗体に関するライセンス契約締結に関するお知らせ

「トラップマウス技術」に関する特許が香港にて成立

国立大学法人熊本大学との共同研究契約締結に関するお知らせ

2月

タンパク質高発現系技術に関する特許出願について

「トラップマウス技術」に関する特許が日本にて成立

GANP®マウス技術ライセンス契約締結に関するお知らせ

3月

GANP®マウス技術ライセンス契約締結に関するお知らせ

株式会社免疫生物研究所との包括的業務提携に関するお知らせ

# 主要な特許の成立状況

## トラップマウス技術

『AU778719』オーストラリアにて成立  
 『US7,312,075』米国にて成立  
 『EP1201759』欧州にて成立  
 『ZL00812904.5』中国にて成立  
 『HK1048830B』香港にて成立  
 『JP4664554』日本にて成立

2005年4月  
 2007年12月  
 2010年3月  
 2010年6月  
 2010年12月  
 2011年2月

## GANP®マウス技術

『ZL2003801028324』中国にて成立  
 『AU2003277620』オーストラリアにて成立  
 『EP1559318』欧州にて成立  
 『JP4426728』、『JP4478577』日本にて成立  
 『KR941905』韓国にて成立  
 『JP4478577』日本にて成立  
 『US7,919,674』米国にて成立

2008年7月  
 2009年2月  
 2009年4月  
 2010年1月,4月  
 2010年3月  
 2010年4月  
 2011年4月

## 尿中がんマーカー:尿サンプルによる癌診断の測定系

『JP3816512』日本にて成立  
 『US7,700,741』米国にて成立  
 『JP4608432』日本にて成立(早期がんの診断)

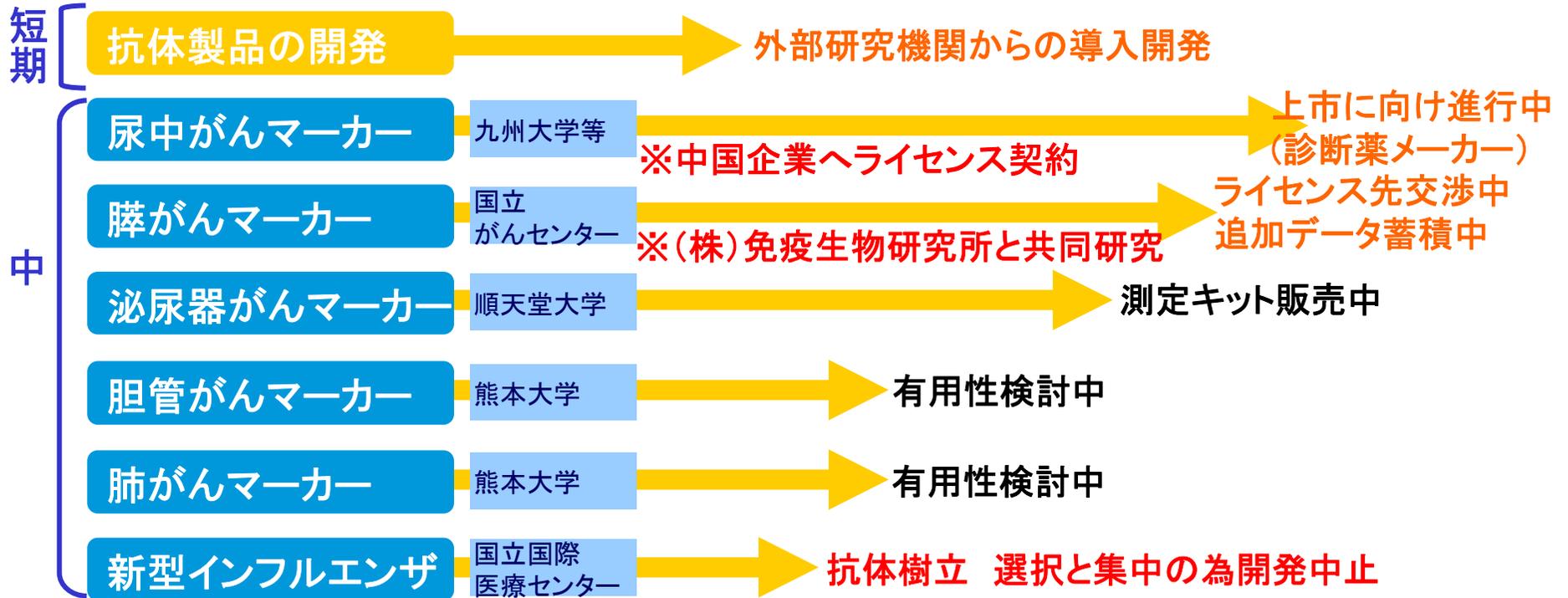
2006年6月  
 2010年4月  
 2010年11月

## 膵がんマーカー:抗体ならびにその診断応用

『JP4319700』日本にて成立

2009年6月

# 開発パイプライン状況





## 大腸がん

	DiAcSpm	CEA	CA19-9
<b>Stage 0</b>	<b>13/21 (62%)</b>	<b>2/21 (9.5%)</b>	<b>1/21 (4.8%)</b>
<b>Stage I</b>	<b>24/40 (60%)</b>	<b>4/40 (10%)</b>	<b>3/40 (7.5%)</b>
<b>Stage II</b>	<b>42/60 (70%)</b>	<b>25/60 (42%)</b>	<b>3/60 (5.0%)</b>
<b>Stage III</b>	<b>92/113 (81%)</b>	<b>53/113 (47%)</b>	<b>24/113 (21%)</b>
<b>Stage IV</b>	<b>14/16 (88%)</b>	<b>10/16 (63%)</b>	<b>5/16 (30%)</b>

## 乳がん

	DiAcSpm	CEA	CA15-3
<b>Stage I</b>	<b>3/15 (20%)</b>	<b>0/15 (0%)</b>	<b>0/15 (0%)</b>
<b>Stage II</b>	<b>6/17 (35%)</b>	<b>1/17 (6%)</b>	<b>0/17 (0%)</b>
<b>Stage III</b>	<b>3/4 (75%)</b>	<b>2/4 (50%)</b>	<b>2/4 (50%)</b>
<b>Stage IV</b>	<b>38/47 (81%)</b>	<b>28/47 (60%)</b>	<b>29/47 (62%)</b>

# 開発パイプライン -膵がんマーカー

## ◆研究の概要および進捗

国立がんセンターにより同定された新規膵がんマーカーに対する抗体をGANP®マウス技術により作製し、膵がんマーカーの新規測定方法を確立

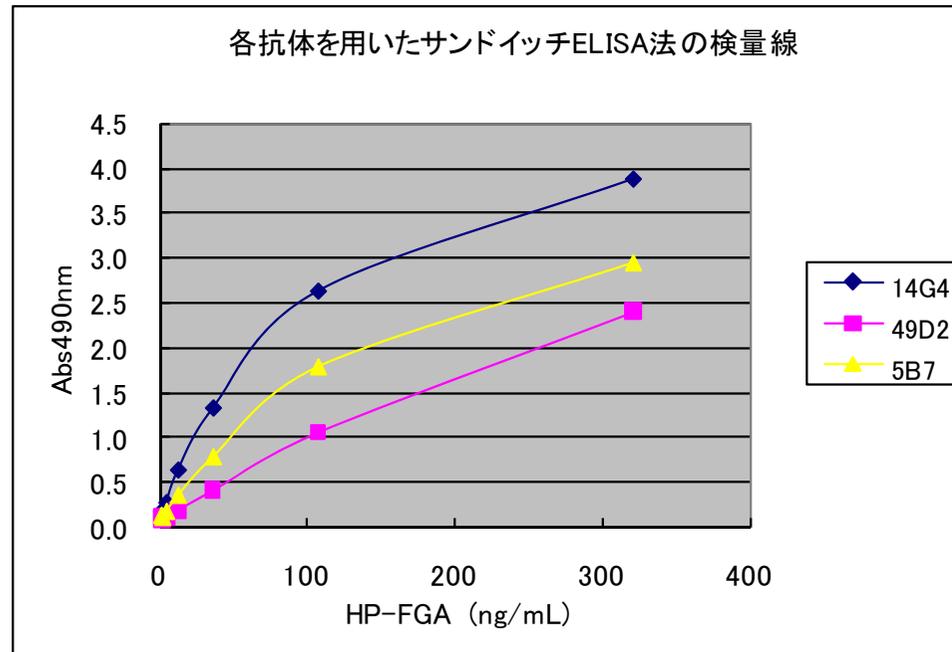
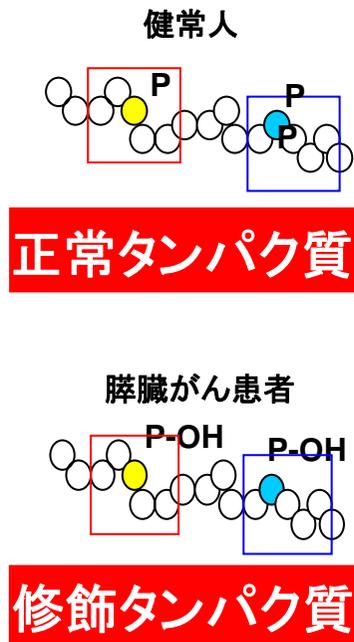
抗体作製	GANP®マウス技術により抗体を作製	終了	
有用性検証	臨床サンプルを用いて、ウエスタンブロット解析にて確認	終了	2009年6月 国内特許成立
測定法の開発	競合ELISA、サンドイッチELISA測定法検討	終了	有用性確認
臨床開発	診断薬メーカー向けデータの集積 ライセンスアウト先交渉中	進行中	

### 今後の予定

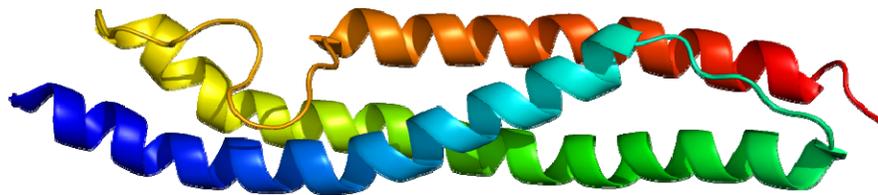
✓免疫生物研究所との共同開発により、キットの最適化を行い、ライセンスアウトを図る

## ◆ サンドイッチELISA測定法の構築

- ✓ GANP®マウスを用いて作製したHP-FGAを認識する抗体2種(認識部位は水酸化プロリン修飾部とFGA共通部)により、サンドイッチELISAの検出系を確立



ACTN4 : アクチン結合タンパク質で、アクチン束状化に関与



↓  
過剰発現

↓  
beta-カテニンと結合

↓  
細胞運動の亢進

↓  
転移の亢進

↓  
予後不良

接着分子カドヘリンとの結合阻害



白矢印P:原発巣(移植部)  
青矢印:腸間膜リンパ節転移巣

大腸がん細胞株にactinin-4遺伝子を過剰発現させると、細胞の遊走能が亢進し、細胞をマウスの回盲部に移植すると腸間膜の所属リンパ節へ転移するようになる。

Honda et al.



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<http://www.transgenic.co.jp>